

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2834	湯河原くゆうゆうの里	一般財団法人 日本老人福祉財	H28.11.19
評価機関	特定非営利活動法人あい・ライフサポートシステムズ		H28.12.14

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	非該当	非該当
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	B	B	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	B	B	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
1-4-4	<p>コンプライアンス委員会、事故ゼロ運動推進委員会、相談責任者委員会、研究活動推進委員会、接遇委員会、等が各課を横断する形で組織され、毎月1回委員会を開催し、サービスの質の向上に向けた取り組みが展開されています。その取り組みの一貫として「入居者がいきいきとした生活を送るために」と題して、職員が日常の業務の中で見つけた課題をテーマアップし、その課題の改善に向けた研究に取組み、その研究成果を法人内で毎年開催される「実践研究発表会」で発表・報告する機会を設けています。この「実践研究発表会」の取り組みは、法人が理念とする、「常に入居者本位の質の高いサービスの提供」を全ての部署が実践する姿勢が伺えます。一方で、聖隷福祉事業団との年1回、5日間に及ぶ交換研修にも取り組まれています。入居者お一人おひとりに最適と思われるサービスを常に提供することを目標とした法人の各種の取り組み姿勢は、各職員のモチベーション向上にも大きく繋がっている様子が伺えます。</p>
2-3-3	<p>単に入居者に直接かかわる生活サービスやケアサービスを担当する職員のみならず、厨房や設備維持管理、更には事務担当の職員を含めて、全ての職員が参加する形で「サービスの質の向上」への取り組みがなされています。それらの日常的な実践研究の内容は小冊子にまとめ全国の書店を通じて発信しています。法人内各事業所の取り組みを順番に冊子に纏め年1回発刊するという形で始まったこの取り組みは、8年目を迎えています。①「食べる楽しみをいつまでも～ソフト食レシピ30～」②「いつまでもお元気でいただくために～さわやか健康プログラムの取り組み」③「あなたはご入居者の声を聞いていますか?～ご入居者相談業務の取組み～」といった内容が纏められており、これらは高齢者介護に携わる多くの人達に対して、示唆に富んだ内容となっています。いずれも自らが実践の中から積み上げられた内容ばかりであり、これ等の具体的な実践内容は、法人内だけに留めず、業界の先駆的な役割をも担って行こうとされる法人の姿勢が伺えます。</p>
2-4-6	<p>防災マニュアルを整備し、防災委員会が中心となって、総合火災訓練、地域の民生児童委員との連携による訓練、年1回消防署の指導を受けた訓練、夜間想定での訓練、更にはどれ位の時間で連絡が徹底出来るかを競う緊急連絡網訓練、等々、様々な状況を想定した訓練が実施されています。又、ホームそのものが地域住民の避難所にも指定されており、日頃からの地域に根差したホーム運営の積み重ねが感じられるところです。又、東日本大震災の時には、約半年間、職員がチームを組んで順番に(1回10日間程度)復興支援のボランティアに参加しています。このことは入居者やその家族の理解が無ければ実行出来るものではなく、職員はもとより、入居者や家族との深い信頼関係が構築されている様子が伺えます。</p>
3-1-6 7-1-1	<p>施設内に診療所が併設されており、医療と介護の両面でのサポート体制が整備され、入居者並びに家族、更には職員の安心感に繋がっています。夜間の緊急時の対応やケース会議への出席等、日常的な入居者の健康管理に診療所の医師並びに看護師が大きな役割を担っています。その結果としてホーム内での看取りのケースも増えている状況を踏まえ、ホーム内にメモリアルホールを設置しています。永年ホームで生活をされて来た入居者の人生の完成期を、最期まで責任を全うするというホームの姿勢が感じられます。</p>
4-2-1	<p>副施設長を委員長とする相談責任者委員会が各部署の専任者を集めて月1回開催されています。入居者の日常生活に関する相談・苦情について「アンケート調査」等で把握し、相談責任者委員会で改善・検討がなされています。入居者の日々の様々な相談事に対してタイムリー且つ的確に対応することは、信頼関係構築の第一歩となります。そのことの重要性を意識し、ホームでは「誰でも相談窓口」という形で入居者の日々の相談・苦情に対応しています。この方針は全ての職員と入居者との信頼関係が前提となって初めて機能するものでありハードルの高い目標となります。その為に、外部のビジネスコミュニケーションセミナーに参加したり、ホーム内接遇研修等の機会を通じてコミュニケーション技法を学びながら、入居者との良好なコミュニケーションの構築に努めています。</p>